

塩谷郡市医師会だより

Contents

平成20年度第4回役員会
平成20年度第5回役員会
塩谷郡市医師会学術講演会の報告
さくら市駅伝大会

社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312
さくら市桜野1319番地3
さくら市氏家保健センター内
TEL 028(682)3518
FAX 028(682)5760

平成20年度第4回役員会報告

平成21年2月9日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター集団指導室にて開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・西・後藤・軽部・佐藤・佐野・岡・半田手塚・本間・尾形新・大和田・池田監事
川原事務長・糸川次長

(医師連盟より)村井信・植木・仲嶋



理事会に先立ち、塩谷広域行政組合より、休日夜間診療室協力医師の源泉徴収漏れについての報告と謝罪があった。

■議題 塩谷総合病院移譲問題について

尾形会長より、国際医療福祉大学病院が正式に受け皿になったこと、4月以降新体制下で崩壊した地域医療をどう再生するかについての話があり、山田副会長(矢板医師団長)から矢板医師団では国際医療福祉大学に救急医療、情報公開、病診連携の推進、医師団・医師会との相互補完について要望書を提

出したことが報告された。友好的関係を最初から構築するように努めることが確認された。また、現状では新病院は医師確保が困難なため、8名の医師でスタートする模様で救急医療に限界があることが予想される。医師会は今後どのような協力ができるか模索していくことになる。

■議題 塩谷地区休日夜間こども診療室について

阿久津副会長より、こども診療室の協力医師がスタート時に比べ減少しており、現在くるす10名、塩谷11名となっている現状と利用者自体も減少していることが報告された。さらに次年度の運営について出席した理事の中で協力している医師に意見を求めた。1か所に縮小して継続するのが現実的との意見が多数を占めた。今後広域行政との細かい調整は阿久津副会長に一任することになった。

■議題 平成20年度決算見込みと

平成21年度予算案について

会計担当理事より説明があった。

■議題 税務調査と税理士交代について

糸川次長より在宅当番医報奨金が交際費とみなされたため、法人課税されたことと旅費日当と講師謝礼の源泉税に対する修正納付が生じた事が報告された。この対策として今後、在宅当番医報奨金は各医師団に振り込

「医師会だより」は活字の大きさを大きくして読みやすくしました。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	糸川 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

まず、実施医療機関に直接振り込むこととしこの場合は医師会では源泉税納付の必要ないことが報告された。

また、現在の星税理士から顧問辞退の申し出があり、次年度からさくら市の本橋秀夫税理士（57）に変更したいとの話があり、承認された。

■議題 旅費規程の制定について

前述の税務調査で指摘された旅費（交通費）について、新たな規定を設ける提案（移動距離に応じて旅費が異なる）がなされ、可決承認された。

■議題 公用車の入れ替えについて

現車両が平成4年納車で老朽化し、トランクに雨漏りが見られ安全性にも不安があることから、リースでホンダ車（1500cc）に入れ替えることが提案され承認された。

平成20年度第5回役員会報告

平成21年3月9日（月）午後6時30分よりさくら市氏家保健センター集団指導室にて開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長
西・後藤・軽部・佐藤・佐野・岡・半田
手塚・本間・尾形新・大和田・池田・越井
大草議長・高橋副議長・川原事務長・糸川次長

■議題 平成20年度決算見込みと

平成21年度予算（案）

西会計担当理事から4月の総会に向けて説明があった。

■議題 地域医療供給システムの見直し

尾形会長より、塩谷地区の医療の現状把握と今後の対応についての説明があった。

■議題 クリニカルパス普及推進事業

阿久津副会長より、脳卒中对策事業として那須郡市医師会が行なっている大田原日赤（急性期）、県医師会塩原病院（回復期）の

連携パスを使用するような形で連携事業を進める計画の説明があった。

■議題 国際医療福祉大学との懇談会報告

2月12日矢板市で塩谷総合病院の移譲先となる国際医療福祉大学幹部との懇談会が開かれたことが報告された。

■議題 第3回シンポジウム開催について

昨年までは秋に行なわれていた地域医療シンポジウムを、今年は7月11日（土）に矢板市で開催する企画案が阿久津副会長から説明された。テーマは「塩谷地区の救急医療の今後」で、4月から新病院となる国際医療福祉大学塩谷病院を中心としたシンポジウムとなる予定である。

*その他

- 1) 獨協医大・自治医大、他の医師会との連携強化を務める予定。
- 2) 休日夜間こども診療室の源泉税徴収漏れの件での報告
- 3) 4月からのこども診療室当番表
- 4) 社保支払基金審査員奥山先生の後任に小島崇先生が決まったこと
- 5) MRワクチン誤接種について
- 6) 郡市医師会・大学医師会懇談会
2月20日の報告
- 7) 佐野市医師会との懇談会
2月26日の報告
- 8) 県医師会代議員会（3月7日）報告
- 9) 公用車が日産ノートになること
- 10) 県医師会親善ゴルフ大会の案内
- 11) 県北医師会講演会が4月25日（土）に矢板市イースタンホテルで開催予定
- 12) 西島英利参議院議員の全国訪問日程
- 13) 医師会駅伝チームがさくら市駅伝大会で3位入賞報告

国際医療福祉大学塩谷病院の概要

4月からJA厚生連塩谷総合病院が「国際医療福祉大学塩谷病院」の名称でスタートすることが発表された。また、当初の医師数は塩谷総合病院からの継続が7名、新規採用が9名の16名の体制となることも明らかにされた。その内訳は内科医3名、外科5名、脳外科1名、小児科3名、耳鼻科1名、眼科1名、麻酔科1名、リハビリ1名となる。

最初から救急医療の体制を構築するのは困難だが、事前の予想より多くの医師が確保されたのではないだろうか。今後の医師数の推移を見守っていききたい。

学術講演会報告

テーマ：「小児の気道疾患とその取り扱い」

日時：平成21年2月17日(火)午後7時～

場所：さくら市氏家保健センター集団指導室

講師：獨協医大耳鼻咽喉科教授

平林秀樹先生

講師の平林先生は気管食道の疾患を専門としており、小児の喉頭の特異性についてわ



かりやすく説明してくれた。また、喉頭軟化症や新生児の両側声帯マヒなどの疾患を、映像を交えながら興味深く示してくれた。われわれ実地医家にとっ

て重要な急性喉頭蓋炎、仮性ク룹などの疾患の対処法や小児で問題となる異物誤飲についても詳しい説明があり、役に立つ講演会であった。(報告者：岡)



平成20年度介護保険審査会委員現任研修会

今度の4月から介護保険の審査会は大きな変更が行なわれる。それに先立ち、去る2月26日(木)午後6時30分から、矢板市公民館において研修会が行われた。介護保険は今や医療保険と並ぶ日本の公的保険の大きな柱である。その中で介護度を決める認定審査会は重要な会議であり、われわれ医師が大きな役割を果たしている。その審査会で使用するデータや判定方法は厚生労働省の役人が机上で考えた空論に基づき、これまでもたびたび変更されてきた。これに対し塩谷郡市医師会では介護保険スタート時から安達先生や尾形新先生を中心に異議を申し立てていた。今回の変更もまた、調査員が行なう、あやふやな評価に基づいたデータを全面的に受け入れた上でのコンピュータの判定になるべく異議を挟めなくしたとしか思えない変更である。審査会の二次判定の変更は調査員の特記事項と主治医意見書により介護の手間が相当かかると判断されない限り変更が困難になった印象がある。そういう点では医師が書く主治医意見書の重要性がよりいっそう増している。今後、医師会だよりでは介護保険についても取り上げていきたいと考えている。

特別寄稿

塩谷総合病院の移譲に思う

広報委員会委員長 岡 一雄

JA栃木厚生連が収支悪化を理由に塩谷総合病院の経営移譲を行なうことが明らかになったのは一昨年の年末であった。それから約一年、ようやく移譲先が国際医療福祉大病院に決まって、4月から新病院としてスタートする。

この一年間、市民もそうであったが塩谷郡市医師会も中核病院機能の存続を求めて署名活動をしたり、シンポジウムを開催したり、県や広域行政、県医師会、移譲先と想定された公的医療機関などに尾形会長を中心として働きかけを行ってきた。そして新聞紙上や県当局から発信されるさまざまな情報に翻弄された結果の移譲先決定であった。はたしてそれらの活動が役に立ったのかどうかどうも判然としない。何もやらなくても結果は同じだったのではないかという悲観的な考えも浮かんでくる。

しかし、一方で確実に言えることがある。それは医師会が地域医療の崩壊という事態に対してひとつにまとまって行動できたということ。そして市民に医療の現状を訴えた署名活動やシンポジウムを通して、今後市民と協同することができる素地を作れたということである。新病院は当初8名の医師でスタートすると聞いている。多い時医師が32名働いていた塩谷地区最大の中核病院だった時の体制に戻すのは並大抵のことではないし、あるいは夢物語かもしれない。しかし、われわれ医師が常々患者さんに言っているように、決して希望を捨てないで、あきらめないで進んで行こうではないか。

(報告者：岡)

TOPIC

さくら市駅伝大会

医師会チーム堂々の三位入賞

去る3月1日(日)さくら市ゆうゆうパークで行われたさくら市駅伝大会に出場した塩谷郡市医師会チームは三位入賞を果たした。一昨年惜しくも入賞を逃した今大会(昨年は雪で中止)は、医師会から森島、西の二名が参加し、強力な助っ人メンバーを集めて優勝を目指した。全員がその実力を十分に

発揮して、参加19チーム中、見事三位に入賞した。今年のレースは今までで一番レベルの高い争いで、上位6チームが大会新記録であった。また、森島選手が4区の区間賞も獲得した。

なお今回、北京オリンピック競歩の日本代表で日本人として初めて入賞した、さくら市在住の山崎勇喜選手が競歩で同じコースを全区間歩いた。



写真上：森島先生 (表彰式)

写真左：山崎選手 写真右：西健太郎先生

第62回塩谷郡市医師会総会のご案内

日時：平成21年4月5日(土)午後5時30分

場所：さくら市氏家保健センター集団指導室

総会后、NIWAカフェダイニングにて懇親会も開催します。ぜひ多くの先生方の出席をお願いいたします。